

平成31年度(令和元年度) 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブ・ラーニングやディスカッションなどを導入するなど、授業の工夫を図っている。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションについて、一定の学習効果を感じている生徒が見られる。	【満足度指標】(生徒) アクティブ・ラーニングやディスカッションにより、生徒が授業に主体的に取り組むようになり、学習効果が高まった。	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まる(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	授業において、教師側が「思考を必要とする発問を行う場面」や、生徒の活動の中で「表現する場面」の設定を、積極的に進めている。	【努力指標】(教員) 各授業で生徒の発表の場面や教師とのやりとりの場面を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図る。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面を(a多く+b時々)設定している割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	いずれの学年も、朝学習と関連して小テストを行うなどすることにより、家庭学習の充実を図る必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	④ 朝学習の充実により、主体的に思考を深める習慣を身につける。	各学年	【1年】 思考を深める朝学習と漢字学習の実施が、国語の「読む」、「書いて表現する」力に結びついている。英語のリスニング演習は、「聞く力」の伸長に寄与している。また、数学は問題集からの「小テスト→再テスト」の流れで、基礎的学力が向上している。 【2年】 昨年度の朝学習で学習準備をして小テストに臨む習慣は、多くの生徒が身につけている。今年は、この学年の苦手教科である英語について速読を取り入れ、英文を正確に把握する力をつけ、表現力の幅を広げることが目的としている。継続した声かけで力がついたと実感できる生徒をより増やしたい。 【3年】 進路実現のために各教科が精選した学習内容を、コースの特性を踏まえて用意する。特に文Iコースの英語強化を年度当初から組み込む。	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組み、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考	
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	①	進路指導課 学年 教科	卒業時の進路達成を意識した、高い志望を掲げさせる方策が奏功し、全学年で高い数値となっており、その志望の実現につなげていくための能動的な学習習慣の確立をさらに促していく。特に、金沢大学以上の難関大学を志す生徒たちには、その意志を強く持ち続けて、さらに実力を高める取り組みに向かうよう働きかけていきたい。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、5教科に対する学習意欲が高まり、学力が向上する。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上 B 60人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査で評価する。	
	②	進路指導課と各学年、教科との進路指導方針の共有により、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	現1年生: 学力的には例年並みであるが、真面目で、課題提出状況などから学習に向かう姿勢にもよい様子が見られ、今後の成長が期待できる。 現2年生: 平均値において昨年度を大きく下回るも、一昨年度よりはやや上回る。また、直近3カ年で上位者数が最も少ない。	【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につける。	1、2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が、 A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で評価する。
	③				【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学を目標とした生徒の育成と、それに見合った学力をつける。	1、2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が、 A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で評価する。
	④				【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学への合格者を増やす。	金沢大学以上の国公立大学合格者数が、 A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満 国公立大学合格者数が、 A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上 難関私立大学合格者数が、 A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。 年度末に評価する。 年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	挨拶運動への参加保護者数が全生徒の約6割であり、学校行事、PTA行事への参加呼びかけに工夫が必要である。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に関心を持ち、積極的に参加している。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が4回以上の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	新しい情報をすばやく掲載する部署が増えてホームページが学校の様子を速やかに伝えるものになってきている。学校行事は年間通じて紹介されており、学年通信や保健室だよりなども閲覧できるようになった。一方、保護者アンケートではホームページを見たことがあると答えたのは半数ほどである。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報が集約され、速やかにホームページ上に掲載される。	ホームページ上の更新回数が、 A 120回以上 B 90回以上 C 60回以上 D 45回未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上を目指す。	生徒課	様々な状況の中で、中途退部者が発生している。各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。	【成果指標】(生徒) 新人大会後の1、2年生の部同好会(外部団体での活動)の加入率。	1,2年生の部・同好会活動(外部団体での活動含む)の加入率が、 A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
	④ 明倫祭の外部公開の継続と、校内開催と校外開催の内容充実と、近隣商業施設、小中学校でのポスター掲示など広報活動を活発にすることで、来場者数の増加を目指す。	生徒課	30年度1日目(9/1 土) 814名、29年度1日目(9/2 土)は770名の来場者であった。内訳は、生徒の家族が大部分を占め、増加分は主に小中学生の入場者である。これは、天候や地域イベント等によって左右される数である。	【成果指標】(保護者・地域住民) 1日目(校内企画)の来場者数。	1日目の来場者数が、 A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 500名未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月に評価する。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公共図書館の司書を招いてのビブリオバトルなど地域と連携した活動を行うことで発信・表現力を育てる。	図書課	地域の保育園に読み聞かせに行ったり、『放課後子ども教室』で小学生に本の読み聞かせを行うなど地域と連携した活動は評価も高く、また情報発信や表現する力もついてきている。	【成果指標】(生徒) 地域と連携した図書委員会活動において、生徒が主体的に活動し、その結果としての情報を発信している。	地域と連携した図書委員会活動の回数が、 A 年間10回以上 B 年間8～9回 C 年間6～7回 D 年間6回未満	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課各学年	保護者や全職員による登校指導や、生徒有志による挨拶運動により挨拶をする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになっている。	【努力指標】(生徒) 生活意識調査の挨拶に関する項目で、校内で出会った人に対して、自ら挨拶できる生徒の割合を高める。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	② 登校指導や生活指導などにより、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	生徒課各学年	生徒の規範意識は高い。一方で僅かではあるが、頭髮の加工や制服の変形着用をしている生徒がみられる。	【努力指標】(生徒) 生活意識調査の校則に関する項目で制服の着こなしが守れている生徒の割合を高める。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合 は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課各学年	規範意識自体は高いが、自転車のルールやマナーについて身につけていない生徒も見られる。二人乗りや携帯電話、イヤホンや並列走行など、より細かな指導と啓発活動が急務である。	【成果指標】(生徒) 生活意識調査の自転車運転に関する項目でルールとマナーの必要性を認識し行動できる生徒の割合を高める。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことへの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課各学年	全校参加の校外清掃の他に、野々市駅清掃・野々市市の行事などにボランティアとして参加できる機会がある。	【成果指標】(生徒) 年間の各部のボランティア活動実施報告の参加人数を増やす。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人とかかわることを苦手とする生徒が増え、おり、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室生徒課各学年	いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対処をしている。	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価アンケートで評価する。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	昨年度、歯科検診の結果で要精検であった生徒のうち、受診した生徒の割合は1年生が80.8%であったが、2年生は70.5%、3年生は57.7%と学年が上がるごとに受診率が下がっている。特に3年生が低く、放課後補習や土曜日の模試等で学習を優先させていると思われる。	【成果指標】(生徒) 医療機関の受診を勧められた生徒が自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介冊子の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	朝読書の廃止や図書館の改修工事、またスマホ所持に伴う読書離れにより、貸出冊数は少ない。	【成果指標】(生徒) 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増加している。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が、 A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
5 教職員の資質や指導力の向上を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① 業務の軽減や負担の分散、時間管理の促進などにより、職員の多忙化改善を進める	副校長 教頭	時間外勤務は、全体では前年よりは減少しているものの、80時間を超える教職員は1ヶ月平均で6.7人、そのうち100時間を超える教職員が2.1人となっている。	【成果指標】(教職員) 時間外勤務が80時間を超える教職員が減少している。	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が、 A 3.0人未満 B 4.0人未満 C 5.0人未満 D 5.0人以上	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。